

寺
ごよみ

一 月

一 日 除夜の鐘

年頭参り

一 四 日 法要準備

御正忌

一五日前十一時お講

午後一時 法要

一六日前十一時お講

午後一時 法要

法話：十五日雪山教隆

十六日雪山俊隆

二六日 仏教婦人会総会

年会費について

年会費は一万一千円お
願ひしております。どう
ぞよろしくお願い致しま
す。

寺 報
善 巧
ぜん ぎょう

発 行

〒 938-0862 富 山 県
黒部市宇奈月町浦山 497
白 雪 山 善 巧 寺
TEL (0765)65-0055
FAX (0765)65-0975
<http://www.zengyou.net>



絵画：野崎國子さん（愛本新）

自分が生まれた年（昭和四十八年）の報恩講芳名帳を見てみると、三百八十二名の名前が記されていました。現在のおよそ四・五倍の人数です。そこに記されている方々は、おそらく子供の頃に親に連れられて来た人や、嫁いであら姑に促されてお寺へ来ていた人たちが多いと思います。昔は村の拘束力が強く、お寺参りもそのひとつだったと思われるますが、数十年通い続けるうちに「私のお寺」という気持ちを育んでおられたことでしょう。

あなたのお寺

なく、百年単位で言われ続けてきたのかもしれない。住職を継職して二十年ほど経ちますが、その間、参拝者の減少はずっと言われ続けてきました。その言葉は「住職がんばれ！」のエールだと受け取っていますが、ひとりではとても抱えきれぬ重さではないので、どうぞ手をお貸しください。他人のお寺ではなく、あなたのお寺です。お講をリニューアルしたのは参拝者が二・三人になったことが一つの要因でした。ほぼゼロからのスタートになつたので、人が少なければこちらの誘いと魅力が足りないことに尽きます。おかげさまでとても清々しい気持ちでやりがいを感じています。どうやったら振り向いてもらえるのか。今後も試行錯誤を続けていきます。

参拝者のピークはさらにさかのぼり、本堂がひと回り大きなサイズで再建された明治初期頃と予想されます。本堂を現在の大きさにしたのは、それだけの人数を見込んでいたはずなんです。そういう意味では、参拝者の減少は今に始まったことでは

雪山俊隆

報恩講

十月一九〜二〇日

親鸞聖人のご法事「報

恩講」がとりまりました。

両日、午前中の法話は内陣へあがり親鸞聖人の生涯を絵であらわした御絵伝の前に、川崎順正先生より絵解き法話を聞かせていただきました。

今回の法要で気になっ

たことは、午前から午後までを通してお参りする方が激減し、二日間のうち一座のみ参拝される方が多かったです。そのため、昼食がだいぶ余ってしまい料理を作ってくだ



さった婦人会の皆さんに申し訳なかったです。来年の検討事項とします。

空華忌

十一月一六日

空華忌は第十一代住職僧鎔のご法事です。今回は三年に一度の行信教校の学生参拝にあたり、同学校の藤澤信照先生よりご法話をいただきました。

昭和初期まで小学校では「そうようさま」の歌が歌われていました。その僧鎔さんに触れて頂き



たく、ここに表白を紹介しします。

空華忌表白（抜粋）

僧鎔法師は水橋の農家渡辺家に生まれ、幼少期の名を與三吉と言いました。十一才の時に上市明光寺の靈潭法師に見初められ、親もとを離れて養子として明光寺へ入り、以来、十年の間、恩師と生活を共にしながら浄土真宗の学びを深めていかれました。

その当時、善巧寺では第十代住職慶翁に跡継ぎがおらず、明光寺の評判を受けて僧鎔法師に白羽の矢を立てました。僧鎔法師が京都でさらに宗学を深めていかれることを条件に、二十一歳で善巧寺の嗣となりました。

京都では同郷出身の僧樸法師の門弟となり、師の一字をいただき「僧鎔」と改め、宗学を研鑽されました。僧樸法師の僧鎔法師にかけける期待は大き

く、三十一才の時に学林で講義を受け持ち、ご往生の後には、大阪・祐貞寺を譲り受けました。その後、多くの講義と論文を残し、五十一才の時には本願寺の命を受けて宗学の論争を収められました。

善巧寺では、学塾「空華廬」を開き、多くの学僧を育てられました。その門弟方も里へ帰り各地で学塾を開く際に、自分の弟子とは言わず、僧鎔法師の墓に参らせて空華の門弟に入ると言われたそうです。今、共におつとめいたします、行信教



校の学生方がここにおられる所以は、その流れを汲んだ姿です。

正信偈に学ぶ

十一月二八日

行信教校の卒業生「専精会富山支部」が主催する行信講座は今回で八回目を迎えました。毎回とても深い内容のお話をいただいています。今年は四月と十一月開催予定です。十一月は空華忌に合わせて行われ、十回目を迎えます。



ほっこり法座

お講をどなたにも参加しやすい法座としてリニューアルした「ほっこり法座」は、十二月十六日で十一回目を迎えました。まだ軌道に乗っていないとは言えませんが、「定期的に開かれる法座」として平均二十名の方にご参加いただいています。

定期的な法座が安定すればお寺としての存在意義に自信が持てると思



い、お講の改革は長年の懸念事項でした。これまでも様々な変遷があり、古くは貧しい時代にお腹いっぱいにごはんを食べたいと小学校を休んで参加する子供もいたそうです。先々代俊之の時までは、おつとめ、短い法話、昼食で終了していましたが、先代隆弘は午後「オマケの説教」を設けました。後に三ヶ寺交代制で法話を担当する期間が続き、最近では

副住職がしばらく担当していました。お楽しみとして花見や映画上映、お寺巡りなどを行うなど、様々な試行錯誤を繰り返してきました。それらの経験の礎に、今回のリニューアルに至っています。

「ほっこり法座」はどなたも自由に出入りしていただける「開かれた法座」です。仏法に耳を傾け人生の問いを共有し、食事とコミュニケーションをお楽しみください。



清掃奉仕、ありがとうございました！

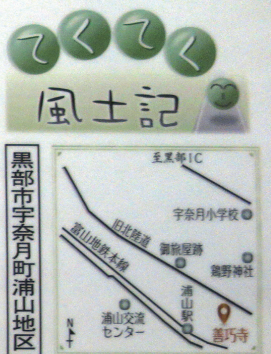


ほっこり法座の参加者に法物蔵を案内する雪山さん（左）

外に出ると、大イチョウが冷たい雨にぬれていた。でも心はぽかぽか。いい縁に恵まれたことを感謝した。
(黒部支局長・室井秀峰)

③ ほっこり法座 お寺を居場所の一つに

開催10回目を記念した法物蔵の見学もあり、高僧として知られる11代住職・僧録さんの遺墨などを見ることになった。最後はティータイム。坊主手作りのケーキをいただき、盛りだくさんの一日を締めくくった。



人に参加してもらって、名前も進め方も改めた。5月から開き、雪山さんや県内外の若き僧侶が仏教の魅力を易しい言葉で伝える。

御正忌ごしょうき

親鸞聖人の祥月命日に
つとまる法要です。

一月十五日（火）

午前十一時お講

午後一時 法要

法話：雪山教隆

十六日（水）

午前十一時お講

午後一時 法要

法話：雪山俊隆

年頭参り

一月一日午前八時～

御正忌準備

一月十四日午前九時

仏教婦人会総会

一月二十六日

ほつこり法座

午前二時～午後二時半／参加費千円

二月一日（金）

マイ経本作り 写経と和綴じ

※この回のみ会費二千円、午後二時頃まで

二月一六日（土）

ゼロから味わう仏教／日下賢裕先生くさか

三月一日（金）

浄土って本当にあるの？／西塔公崇先生

三月一六日（土）

浄土真宗と私の仕事／林口砂里先生

四月一日（月）

救いつてどんなこと？／葭田誓子先生よしだ

四月一六日（火）

まことのしあわせ／佐藤知水先生

初参式・七五三募集

日程：四月二十八日（日）

午前十時 初参式

午後一時 七五三

参加費：三千円

※お申込みはお寺まで。



寺
ごよみ

二 月

一 日

おこう（浦山）

一 三 日

生地・荻生・植木

一 四 日

生地・荻生・植木

一 五 日

生地・荻生・植木

一 六 日

おこう（下立）

二 〇 日

舟見報恩講

二 一 日

入善報恩講

二 二 日

入善報恩講

二 五 日

熊野・栃屋報恩講

二 六 日

熊野・栃屋報恩講

二 七 日

三日市報恩講

二 八 日

三日市報恩講

寺
ごよみ

三 月

一 日

おこう（浦山）

四 日

三日市報恩講

五 日

三日市報恩講

八 日

下立報恩講

一 一 日

下立報恩講

一 二 日

下立報恩講

一 四 日

浦山報恩講

一 五 日

浦山報恩講

一 六 日

おこう（析沢）

一 八 日

浦山報恩講

二 〇 日

浦山報恩講

二 二 日

浦山報恩講

二 六 日

浦山報恩講

二 七 日

浦山報恩講

二 八 日

浦山報恩講

合 掌

何度も繰り返しになりますが、今年度はなんと
言っても「ほつこり法座」
に力を入れていきます。一
回一回を丁寧につとめ、
参加者の声に耳を傾ける
ことの大切さを改めて感
じています。まだ参加さ
れていない方は、まずは
一回ご参加下さい。

※ ※ ※

一昨年、お蔵や奥座敷
を活用して開催した展覧
会の企画を、今春に予定
しています。参加作家の
おひとりとは入善町在住の
銅版画家、玉分昭光さん
です。花まつりの時節に、
お釈迦さまのお弟子たち
をテーマに制作してくだ
さることにになりました。
乞うご期待！

※ ※ ※

平成最後の年、本年も
どうぞよろしく願いま
します。



ぜんぎょうじ

検索